

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年5月14日現在

機関番号：15401

研究種目：若手研究（A）

研究期間：2008～2011

課題番号：20683001

研究課題名（和文）破綻国家の再建における国際平和活動の新しい役割と課題

研究課題名（英文）A New Role and Challenges of International Peace Operation in Rebuilding of Failed States

研究代表者

上杉 勇司（UESUGI YUJI）

広島大学・大学院国際協力研究科・准教授

研究者番号：20403610

研究成果の概要（和文）：近年の国際平和活動の新しく重要な取り組みの一つである治安部門改革（Security Sector Reform: SSR）を巡る課題を整理した。紛争後の平和構築の過程で取り組まれる治安部門改革は、国際平和活動を撤収・終了させる道標として位置づけられている。しかし、安全保障上の要請と持続的な開発のための要請との間での調整が難しい。また国家の中核機能に関わる取り組みになるため、外部主導の改革には抵抗が生まれやすいため、いかに現地社会の主体性（Local Ownership）を確保していくのかという課題も山積であることを事例を用いて明らかにした。

研究成果の概要（英文）：The study reviewed the challenges of Security Sector Reform (SSR), which is a new and critical activity of modern international peace operations. SSR, which is conducted in the context of post-conflict peacebuilding, is considered to be a milestone for the exit of international peace operations. However, it is difficult to coordinate the divergent requirements for maintaining security and sustainable development in SSR. As SSR involves the core functions of a state, and therefore it is likely to cause a resistance to externally driven SSR, the challenge revolves around the question of how to promote Local Ownership in SSR. This has been clarified in this study by referring to case studies.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	1,700,000	510,000	2,210,000
2009年度	1,600,000	480,000	2,080,000
2010年度	1,600,000	480,000	2,080,000
2011年度	1,400,000	420,000	1,820,000
総計	6,300,000	1,890,000	8,190,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：政治学・国際関係論

キーワード：平和構築、治安部門改革、国際平和活動

1. 研究開始当初の背景

破綻国家や脆弱国家と呼ばれる国家機能が崩壊しつつある国家から派生する治安関連の問題の存在が国際安全保障上の懸案として強く認識されるようになった。その背景には、9.11 テロがあり、破綻国家や脆弱国家を放置しておくことは、アルカイダのような国際テロリストに聖域を与えることになると考えられたことがある。このような現実世界の動きを反映し、学界においても破綻国家や脆弱国家の研究が脚光を浴びるようになった。とりわけ、破綻国家や脆弱国家の再建において、国連等が実施する平和活動が果たす役割に関する学術と実務の双方の関心が高まった。

そして、国家の再建に取り組む上で、再建を目指す国家像をどのようなものにするのかを巡る議論が活発化していた。そこには、国家建設、平和構築、民主化、民主的統治、治安部門改革 (Security Sector Reform: SSR) といった概念に関する関心の国際的な高まりがあり、日本の学会においても同様の流れが生まれていた。

2. 研究の目的

国連等の国際組織が実施する破綻国家の再建における国際平和活動の役割と直面する課題を浮き彫りにすることを研究の目的とした。特に治安部門改革と呼ばれ、近年の破綻国家再建の中核的な活動に位置づけられている取り組みに、本研究では焦点を当てて検証することとした。

なお、治安部門改革に関しては、技術論的な関心から書かれた実務家による報告者や政策論的な観点から研究者によって整理された著作があるものの、治安部門改革の現場において、それを主体的に担うべき存在である政府関係機関と治安部門改革を支援する国際社会の側との間に存在する摩擦を取り上げたものは少なく、そのような実務と研究の双方に存在するギャップを埋めることも目的とした。

このような目的を持った研究における主要な視点は、治安部門改革を実施していく上での政治的な課題（特に、外部主導と現地主体性の間に生まれるジレンマ）を念頭に置くことであり、このような視点の重要性も合わせて論述することも研究の目的とした。

3. 研究の方法

破綻国家や脆弱国家の再建過程の実態と、それに関与する近年の国際平和活動の実態を明らかにし、そのうえで、両者の関係を、国際平和活動が破綻国家・脆弱国家の再建の

文脈で直面する課題に焦点を当てて研究した。

本研究の中心的研究課題である治安部門改革に関して、先行研究や現地調査を通じて、あるいは治安部門改革の専門家との意見交換を通じて、研究の前半で理論的枠組みを構築した。その際に、経済協力開発機構・開発援助委員会 (OECD/DAC) を中心に実務や政策論的な場での議論との関連を重視し、さらには「人間の安全保障」を巡る新しい安全保障観の議論を土台に理論的枠組みを整理した。

後半では、その枠組みを用いて事例研究を実施した。事例研究では、アフガニスタンやイラクといった国際社会の関心事となっている事例から、国際的には関心の高くないアジアの事例（東ティモール、スリランカ、ネパール、フィリピン、インドネシア、タイ等）、さらには、アフリカにおけるコンゴ民主共和国やモザンビーク、ヨーロッパの旧ユーゴスラビア諸国までを検討した。すなわち、各種事例を比較分析するなかで、治安部門改革における共通要素を本研究を通じて浮かび上がらせることを狙っていた。

ただし、本研究の焦点である治安部門改革は、取り組まれる文脈（環境要因）によって特徴や課題が大きく変わってくるため、共通要素の理解を再評価する上でも、一つの事例を深く分析することも必要になってくる。そこで、東ティモールをそのような詳細に検証する事例として選択し、政府や国連関係者への聞き取り調査を中心に、研究課題を明らかにすることに努めた。東ティモールには、研究期間中は毎年複数回訪問し、定点観測をするとともに、外部主導と現地主体性の間に生まれるジレンマについては、多様な関係者への聞き取り調査を節目節目で実施した。

4. 研究成果

破綻国家の再建における国際平和活動に関する研究の一環として、東ティモールにおいて同国政府と国連を中心に取り組みされた治安部門改革に焦点を当てて、東ティモールが取り組む治安部門改革と破綻国家再建の取り組みに関する研究を実施した結果、外部主導と現地主体性の間に生まれるジレンマという問題についての貴重な洞察が得られた。具体的には、治安部門改革を担う東ティモール国防治安省傘下の治安担当国務長官事務所と治安部門改革の支援を実施する国連東ティモール統合ミッションの間に生じた調整上の課題が浮き彫りにされた。この点については、東ティモール政府や国連関係者に対する聞き取り調査や意見交換を通じて、明らかにした。

現代の国際平和活動の中で、最も重要な取

り組みになりつつある治安部門改革に焦点を当てることで、破綻国家の再建に国際平和活動が関わる際の新しい課題を抽出することができた。とりわけ、これまでの研究においては、国際平和活動に関わる側の連携や調整に課題に注目が集まっていたが、本研究では、支援を受ける側である東ティモール政府機関の動向に着目し、国連を中心とする支援者としての国際社会の側と支援を受けつつ実際に治安部門改革を担う政府機関の間に生じる課題を検証することができた。

本研究を通じて明らかになった具体的な課題は、次の2つに集約できる。まず、平和構築の重要な指針の一つである現地社会の主体性（ローカル・オーナーシップ）に関連する課題。次に、短期的に治安の回復・維持を優先する取り組みと中長期的な視点から民主的統治の確立を重視するとの間で優先順位化を巡る課題。東ティモールの事例研究の成果を踏まえて、より一般的な破綻国家の再建における国際平和活動の役割に関する議論に還元し、平和構築における治安部門改革に関する研究書籍にまとめる成果へとつなげることができた。

国内としては、治安部門改革について体系的に整理された最初の専門書を上梓することができ、また国外的には、英文論文の発表や国際学会での報告を通じて、世界的に関心の高いアフガニスタンの事例から、関心が薄いアジアの事例まで分析することで、学術的な貢献を果たすことができた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計7件)

1. 上杉勇司、「PKOからODAへ—平和構築の連続性を考える」、『外交』、査読無、vol. 12、2012年、134-139頁。
2. 長谷川晋・上杉勇司、「イラク治安部門改革(SSR)への民間安全保障会社(PSC)の使用に関する米軍と英軍の違いの考察—反乱鎮圧作戦の経験と正当性に対する理解の相違からの説明」、『広島平和科学』、査読有、33号、2012年、71-92頁。
3. Shamsul Hadi Shams and Yuji Uesugi, “Analyzing the Underlying Causes of the Afghan Intrastate Armed Conflict through the Lens of three Insurrection Approaches,” *Journal of International Development and Cooperation*, 査読有, vol. 17, No. 2, 2011, pp. 75-98.
4. Yuji Uesugi (ed.), *Peacebuilding and*

Security Sector Governance in Asia, 査読無, HiPeC Activity Report Series (The 1st HiPeC Practitioners Seminar), 2011, pp. 1-24. (巻なし)

5. Tetsuro Iji and Yuji Uesugi, *Terminating Civil Wars: The Cases of Tajikistan and Cambodia*, 査読無, HiPeC Discussion Paper Series, vol. .7 (September 30, 2010), pp. 1-24.
6. Yuji Uesugi, “Provincial Reconstruction Teams (PRTs) in Afghanistan: Filling the Gap in Peacebuilding,” Masatsugu Matsuo et al. (ed.), *Peace and Human Security*, 査読無, IPSHU English Research Report Series, 23, 2009, pp. 173-193.
7. 上杉勇司、「平和協力国家日本の構想—平和構築支援と文民派遣体制の強化策—」、『海外事情』、査読無, vol. 56, No. 9, 2008年, pp. 69-86.
8. 上杉勇司、「日本の国際平和協力政策における自衛隊の国際平和活動の位置づけ」、『国際安全保障』、査読無, 2008年, pp. 41-66.

[学会発表] (計3件)

1. Yuji Uesugi, *Peacebuilding and Security Sector Governance in Asia: A Comparative Case Study of Timor-Leste, Sri Lanka and Nepal*, International Studies Association, 18 March 2011, Montreal, Canada
2. 上杉勇司、平和構築における治安部門改革(SSR)の理論と現実—包括的アプローチと段階的アプローチの相克、日本国際政治学会、平成22年10月30日、札幌市
3. 上杉勇司、アフガニスタンにおける平和構築—治安と復興の負の連鎖を断ち切るために、日本国際政治学会、平成20年10月24日、つくば市

[図書] (計5件)

1. Yuji Uesugi, “Building a Foundation for Regional Security Architecture in the Asia-Pacific: Human Resource Development for Peacebuilding” in William Tow and Rikki Kersten (eds.), *Bilateral Perspectives on Regional Security: Australia, Japan and the Asia-Pacific Region*, Palgrave Macmillan,

2012（掲載決定）。

2. 上杉勇司、藤重博美、吉崎知典（編）『平和構築における治安部門改革』、国際書院、2012年（掲載決定）、1-227頁。
3. Yuji Uesugi, “The Nexus between Peacebuilding and Regionalism in Asia Pacific: Japan’s Attempt to Mainstream Peacebuilding through Human Resource Development,” in Tadashi Yamamoto and Koji Watanabe (eds.), *New Challenges, New Approaches: Regional Security Cooperation in East Asia*. 2011, pp. 37-57.
4. 上杉勇司・長谷川晋（編）『平和構築と治安部門改革（SSR）—開発と安全保障の視点から—』、IPSHU 研究報告シリーズ、研究報告 No. 45、2010年、1-160頁。
5. Yuji Uesugi (ed.), *Toward Bringing Stability in Afghanistan: A Review of the Peacebuilding Strategy*, IPSHU English Research Report Series No. 24, 2009, pp. 1-144.

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者

上杉 勇司 (UESUGI YUJI)

広島大学・大学院国際協力研究科・准教授
研究者番号：20403610

(2)研究分担者

()

研究者番号：

(3)連携研究者

()

研究者番号：